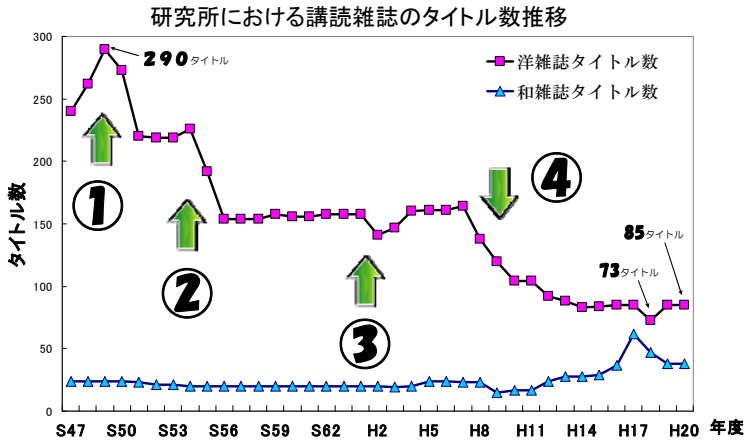
神経科学系専門図書館における選定タイトルの推移

鷹野祐子 赤沢友子
（財）東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所 図書室

目的　東京都神経科学総合研究所（以下、研究所）は、神経系及びその疾患並びに神経疾患による心身障害児（者）に関する研究を統合的に行うことを目的に、昭和 47 年（1972 年）に設立された。設立以来、一環して神経科学に関する基礎医学的、臨床医学的および社会医学的研究に邁進し、脳・神経系疾患の原因・病態の解明と予防法、治療法の開発、さらに医療と看護による脳・神経系疾患患者の社会福祉の向上を目指し、近隣の関係医療機関との連携のもとに多くの研究成果をあげ、これらの研究成果は広く臨床の場で活用され、医療福祉の向上に寄与している。図書室は研究所発足とともに共同利用施設として開設され、研究活動を行ううえで必要とされる文献の収集、管理保管及び資料提供等の業務を行っている。本発表ではピーク時 290 タイトルあった購読洋雑誌の変遷をたどる。

調査方法　発足時（昭和 47 年）からの研究所年報、図書室原簿および図書委員会議事録を調査した。図書委員会議事録は平成元年からの資料のみ現存しているため、詳細な雑誌タイトルの遷移については平成元年からの 20 年間について調査した。

結果　洋雑誌タイトル数の変遷を以下の図に示した。洋雑誌タイトルは、昭和 49 年度の最多時 290 タイトルから平成 18 年度の最少時 73 タイトルまで大きく変動していた。主に減少傾向にあり、平成 20 年度現在の購読雑誌はピーク時の 3 割になっている。タイトルの減少時期は、図に示すように大きく 4 つの時期に分けられた。



考察　洋雑誌タイトルの減少について、大きく 4 つの時期に分けて考察する。第一次減少期は、昭和 49 年から 51 年にかけて 290 タイトルから 220 タイトルに減少した。これは、昭和 48 年 10 月に始まる第一次オイルショックに伴う不況と財政難、円安が原因であった。その後も第 2 次オイルショック、バブル経済崩壊に伴って、東京都の財政が研究所購読タイトルに影響していることがわかった。本発表では、特に第 4 次減少期について詳細に調査し、図書委員会での討議、対応策などを示す予定である。